

山梨大学教育学部附属中学校スクールプラン

附属学校としての使命

- 中学校教育の研究、実験・実証
- 教育実習実施及び指導
- 研究成果公開、公立学校への協力、中学校教育推進

学校教育目標

- 学ぶことに誠実な生徒
- 健康で情操豊かな生徒
- 自らの可能性に積極的に挑戦する生徒
- 互いの良さを認める生徒

附属校園で育成を目指す「子ども像」

個人の尊厳を重んじ、多様な文化や価値観を受け入れ、自ら課題を見だし、解決に努力する積極性・先見性・創造性に富んだ子ども

先進的教育を実践し創造性、学びに向かう力を育成する学校づくり

学校経営の重点

安全な教育環境と安心して生きいきと学べる学校づくり

安全管理・安全指導徹底
感染症対策徹底
インクルーシブ教育・
人権教育の重視

基本方針

- ・危機管理マニュアルの整備
- ・多彩な場面設定の避難訓練の実施や避難方法の確認
- ・安全優先の感染症対策推進と教育活動実践のバランス重視
- ・きめ細かな管理、指導体制の構築と実施
- ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教育環境の整備
- ・個性を尊重する教育の実践

具体的方策

- ①危機管理意識・危機管理能力の育成、感染症対策の徹底
- ②保護者メールやHP等活用した緊急時連絡システム構築
- ③国、県、大学の緊急対策マニュアルを踏まえた最善の感染症対策実施
- ④with感染症、after感染症の社会を見越した新たな学校の創造
- ⑤きめ細やかで丁寧な生徒理解、いじめの早期発見・未然防止・迅速な対応
- ⑥情報の視覚化や場・時間の構造化等の工夫による「分かりづらさ」の解消
- ⑦子どもの人権を尊重したきまりや環境の整備

先進的教育の実践

- ・ICTの良さを生かした教育の推進。
- ・クラウド型システムの効果的活用の定着とさらなる開発
- ・個別最適な学び、協働的な学びのいっそうの促進（令和の日本型教育）
- ・大学との連携による学びの深化
- ・スムーズな校種間接続に向けての実践

- ①ICT活用による学びの個別化・個性化（達成状況による指導）
- ・タイムレスな「まとめ」「振り返り」による学びの自覚化、効率化、見える化
- ・学びの成果のデータベース化
- ・学力や学び方に応じる取組を実施し、学びの個別化・個性化を図る。
- ②協働的な学びの開発、促進、充実
- ③若桐講座等大学資源の効果的活用

創造性、学びに向かう力の育成

- ・山梨大附属中型「主体的な学びのプロセスモデル」の実践
- ・総合的な学習（SELF）を中心とした探究的な学び（主体的対話的で深い学び）の充実
- ・新学習指導要領実施を受けての主体的・対話的で深い学びの充実

- ①非認知能力の育成にともない創造性の育成
- ②主体的な学びのプロセスモデルによる学びに向かう力育成
- ・各教科・領域で「形成的評価⇒方略調整」の設定等のプロセスの導入
- ・「学習調整の実施」「粘り強い取組」についての見取りと評価

カリキュラムデザイン開発

- ・未来を創造する基盤となる資質能力（非認知能力、人間力等）の育成カリキュラムの開発と実践
- ・キャリア教育の充実のための教育活動の開発

- ①4校園共同研究による非認知能力の育成
- ・体験や実習を通し、生活の中で課題解決を目指す資質・能力育成のためのカリキュラムデザインの推進
- ・資質・能力育成を目指す新教育課程の創造（要不要の見極め）
- ②職場体験等による、役割・生き方を展望し実現する資質・能力の育成
- ③ICTを活用したキャリアパスポートの作成と活用

保護者との信頼関係、地域社会や専門機関と連携を生かす学校づくり、活気溢れる学校づくり

PTAや外部機関との連携充実
働き方改革推進による意欲溢れる教職員の育成

- ・非常変災時における支援協力体制づくり
- ・実効性のある引き渡し訓練の実施
- ・効果的、効率的なPTA活動の推進と活動内容の充実
- ・大学や県・市教委との連携
- ・勤務時間の適正管理
- ・変形労働時間制の運用
- ・業務内容の選択と均等化

附属4校園連携 探究サイクル『「きりのは」で育む未来を拓く子ども』を踏まえた実践

・社会生活等の中から解決すべき課題を設定する。課題に対する自分なりの仮説を立てる。

・目的に応じて必要な方法・手段を選択し、情報を収集する。

（き）気付く

（り）理解する

（は）発展させる

（の）伸ばす

・学び方を振り返り、今後の学習や自分の生き方、社会生活等に工夫して生かす。

・構造や因果関係を分析し、目的に応じた論理的な考えを表現する。

- ①非常変災時に学校の機能を維持するための連携協力
- ②PTA活動におけるICT活用
- ③PTA・若桐後援会・同窓会・附属4校園・山梨大学・県教委、甲府市教委・地区自治会等との連携
- ④校務支援システムによる事務作業の効率化
- ⑤勤怠管理システム運用による勤務の見える化
- ⑥変形労働時間制による超過勤務の抑制
- ⑦業務内容の見直しと選択による効率化推進